

「角館の雛めぐり」で

(2/19〜3/21開催)

白岩焼の雛人形を 特別公開

木元哲良さん・美代さんご夫妻
(角館町白岩前郷)



1771年(明和8年)に白岩地区で開かれた白岩焼。陶器とともに「お雛様の土人形」が作られ、地元はその人形が残されていました。

「白岩焼の雛人形は、大正時代、昭和の初め頃にはどこの家にもあったように聞いています。段飾りの人形が出てきて、捨てられてしまった物が多かったと思います。幸い家の蔵に残っていたものを、今回の雛めぐりに展示することになりました」と所蔵していた木元哲良さん。



「白岩の『人形じっちゃ』と呼ばれていた人(木元弘一さんの先祖)が、明治期に白岩焼をやめてから人形作りを始めたと聞いています。この人は、芸人で、横手の中山人形を作っていたことのある人だったようです。型で作る人形なので、土は薄く人形そのものは軽くできています。彩色も剥がれてきています。型は、白岩の人から譲られた物です」
白岩焼は、1900年(明治33年)に廃窯してから100年以上経つだけに貴重で優美な郷土のお雛様をぜひご覧ください。

夫婦で手作りのお雛様

今回取材に伺って、白岩焼の雛人形のほかに飾ってある人形のお話しを伺いました。

「20年ぐらい前に大病をして、何かが紛れることをと始めたのが人形作りでした。私が土で人形を作り、夫が窯で素焼きしてくれたものに絵付けをしました。各地の人形を2人で見て歩きました。土地によって人形の顔がずいぶん違うものですね。人形作りは楽しく、生きる勇気をもらいました。お陰様で元気になりました」と話してくれました。
美代さんの作る人形の顔は、鼻筋がすっと通った優しい表情をしていました。

